

第 11 回 春季研究集会 資料集

2021 年 3 月 13 日 (土)

日本社会福祉教育学会

Japanese Society for the Study of Social Welfare Education



日本社会福祉教育学会 第11回春季研究集会

コロナ禍における社会福祉教育の現状と今後の課題
ー 多様化する授業内容と方法に関する事例報告を中心にー

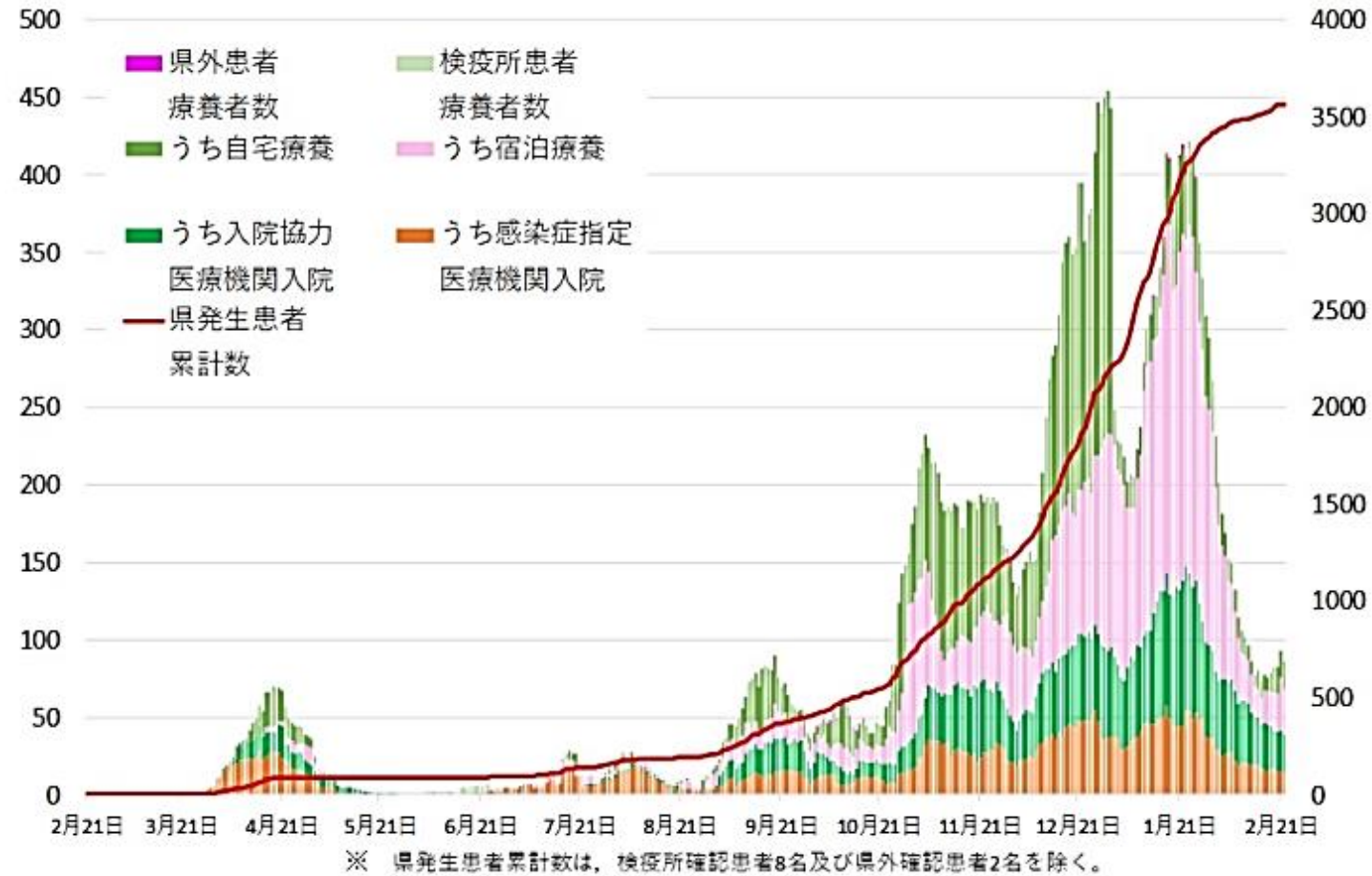
社会福祉援助技術実習への取組み

東北福祉大学 村山くみ

はじめに

- 1 地域の実情
- 2 東北福祉大学の取組み
- 3 社会福祉援助技術実習への取組み

宮城県における新型コロナウイルス罹患者数の推移

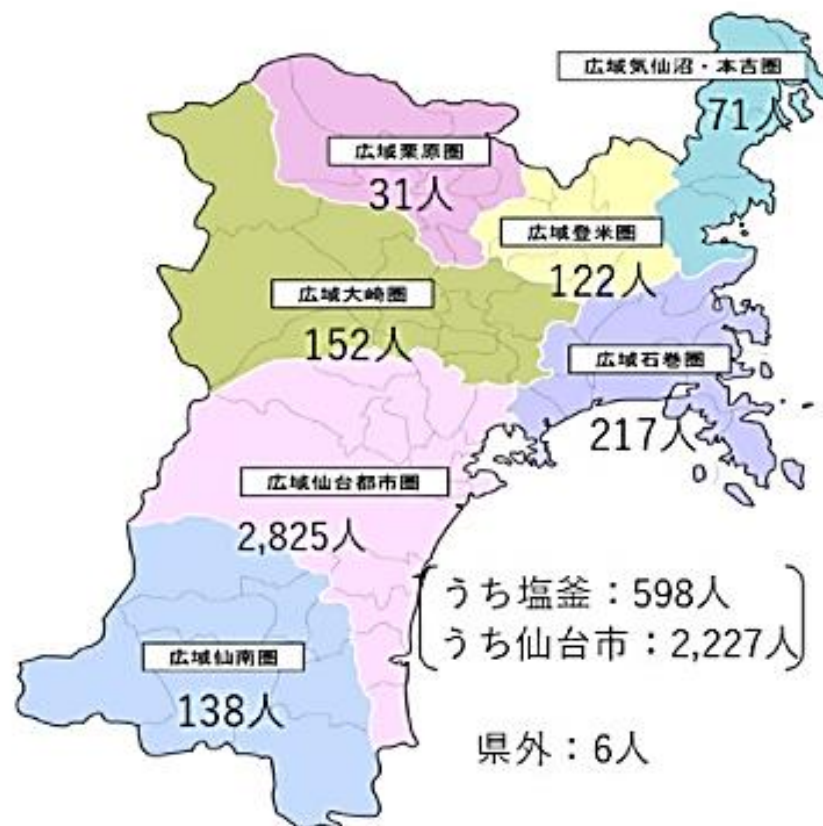


出所:宮城県新型コロナウイルス感染症対策サイト(<https://www.pref.miyagi.jp/site/covid-19/02.html>)

宮城県における保健所管轄別陽性患者数

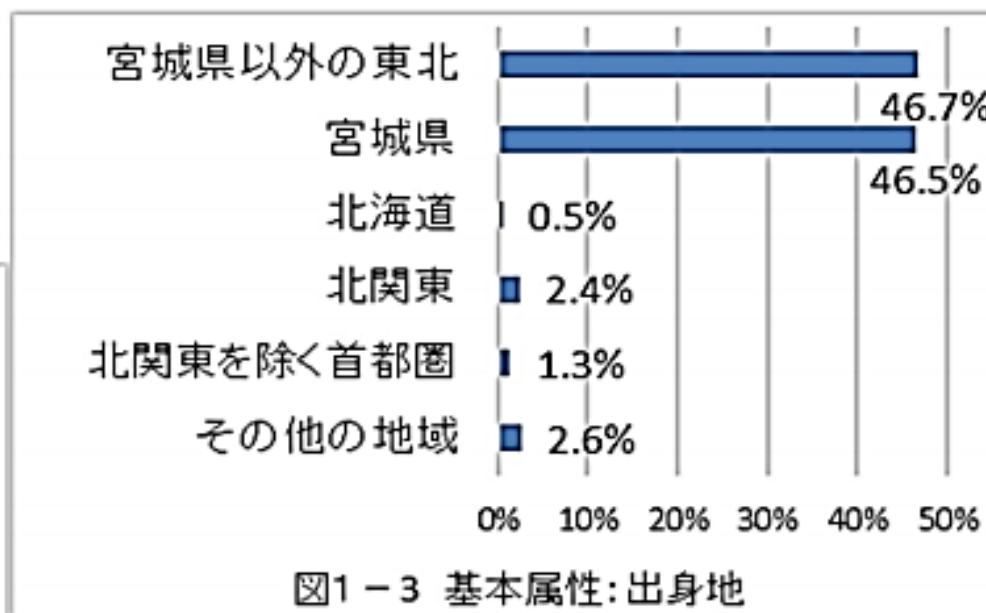
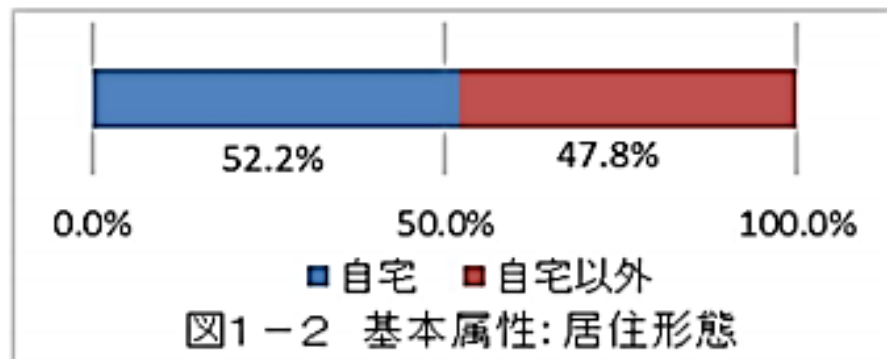
< 保健所管轄別陽性者数 >

		人数
県保健所管内	仙南保健所管内	138人
	塩釜保健所管内	598人
	大崎保健所管内	152人
	栗原保健所管内	31人
	登米保健所管内	122人
	石巻保健所管内	217人
	気仙沼保健所管内	71人
	仙台市	2,227人
	県外	6人
	非公表	1人
	総計	3,563人



出典: 宮城県新型コロナウイルス感染症対策サイト (<https://www.pref.miyagi.jp/site/covid-19/02.html>)

東北福祉大学の概況



出所:「2019 年度入学時アンケートの結果(報告)」より

東北福祉大学の取組み ～オンライン授業の準備～

- 前期授業期間：令和2年5月18日～8月28日へ変更
- 原則対面授業は行わず全ての授業をオンライン授業とすることが決定

【実施へ向けて】

- 👉 オンライン授業の枠組み等を検討する「遠隔授業検討委員会」設置
- 👉 教職員組合組織「オンライン授業担当教職員合同チーム」立上げ

東北福祉大学の取組み ～オンライン授業の準備～

学生への情報提供と支援

- 各種オンライン授業に関するガイドをHP上に公開
専用窓口の設置
- 「オンライン授業で大学生活を始めるみなさんへ」と題する手紙の送付（新入生対象）
- 全学生を対象とした「ネット環境に関するアンケート」を実施
 - ☞ 「東北福祉大学緊急給付金」の給付
- 「オンライン授業の受け方」の公開

オンライン授業はじまります

学生のみなさんへお願いがあります。

みなさんにとって、**EduTrack**が「**教室**」です。

オンライン授業を始めるにあたり、
みなさんに確認していただきたいことがあります。
必ず最後まで目を通してください。

東北福祉大学の取組み ～オンライン授業の開始～

オンライン授業の3つの方法

※科目によって、以下のいずれかの方法（またはその組合せ）で開講されます

	資料提示型 (いつでも受講可能)	動画オンデマンド配信型 (いつでも受講可能)	同時双方向型 (決まった授業時間に実施)
授業の受け方	EduTrackに公開された資料を <u>指定された期間内</u> に読み、 提出期限までに質問や課題を提出する ※「資料を読む＝授業を受ける」 ことになります	EduTrackに公開された授業の 動画を <u>指定された期間内</u> に見て、 提出期限までに質問や課題を提出する	Google Meetを使って <u>設定された時間割の時間に生中継</u> される 授業に参加し、時間内に指示された場合には音声やチャットなどで先生にレスポンスする
使うシステム	EduTrack	EduTrack	Google Meet
受講後の課題	毎回の授業ごとに必ず提出	毎回の授業ごとに必ず提出	提出が求められる場合もある
注意点	1回の授業ごとに資料や動画が提供されるが、計画的に見ないと、指定された期間内に課題が出せず「欠席」になってしまうこと		通信回線の状態が悪いと、音声途切れたり、切断が起きる可能性があること
質問の仕方	EduTrackが原則	EduTrackが原則	Google Meet+受講後EduTrackが原則

授業(オンライン授業)の流れ



 **各自が履修登録をした時間割にしたがって受講するようにしてください**

1 時限	8 : 4 0 ~ 1 0 : 1 0	2 時限	1 0 : 2 5 ~ 1 1 : 5 5	3 時限	1 2 : 3 5 ~ 1 4 : 0 5
4 時限	1 4 : 2 0 ~ 1 5 : 5 0	5 時限	1 6 : 0 5 ~ 1 7 : 3 5	6 時限	1 7 : 5 0 ~ 1 9 : 2 0

- ◆ 資料提示型・動画オンデマンド配信型は期間内であればいつでも受講できますが、**学習習慣を崩さないよう、時間割にしたがい受講をするように**しましょう。

※確認テストや課題が期日指定のため、期日を過ぎた場合は欠席とみなされるケースもあります。担当教員の指示にしたがって下さい。

- ◆ 同時双方向型は、時間割の授業時間での実施となりますので、その時間に参加しなければなりません。
- ◆ オンライン授業を受講する際は、通信環境を確保しながら**受け身**の学習にならないようにしてください。
配信される資料等をしっかりと読み、確認テストや課題などを使って理解度の確認をしていきます。
参加することに満足するのではなく、課題等を活用して**能動的**に学修しましょう。

学内実習の概要

厚生労働省及びソーシャルワーク学校連盟のガイドラインに従い、当該実習の実施の可否について実習受け入れ施設の意向を踏まえた慎重な検討を行った結果、2020年度は全面的に学内で実習を行うことが決定

- 実習期間：2020年8月～9月
- 実 習 生：211名
- 実習期間および時間数：23日間180時間以上
- 領 域：障害者福祉、高齢者福祉、児童福祉、
地域包括支援センター、社会福祉協議会、医療福祉の6領域

学内実習の概要

■実施方法

- ①学内システムのEdu Track
- ②Web会議ツールであるzoomによるオンラインの
双方向コミュニケーション
- ③キャンパスでの対面学習
- ④実習指導講師等によるライブ及び録画による講義

■プログラム

共通プログラム＋領域別プログラム

領域別実習内容（社会福祉協議会）

内 容	方 法	担 当
1 実習先の全体像を理解する	同時双方向 オンデマンド	学外
2 社会福祉協議会において展開されている事業について理解する	オンデマンド	学外
3 社会福祉士（CSW）の活動や役割を理解する	対面	学外
4 災害ソーシャルワークにおける社会福祉士の役割を理解する	オンデマンド	学外
5 コミュニティワークとソーシャルアクションの実際を知る	同時双方向	学外
6 社会福祉協議会におけるサービス利用者を理解する	対面	学外
7 CSWの活動の実際を知る	対面	学外
8 地域診断および福祉教育について理解する	同時双方向	学内
9 地域福祉活動計画策定における住民参加の意義と方法について理解する	同時双方向	学内
10 地域福祉の推進方法を理解する	同時双方向	学内
11 地域福祉の推進方法および社会福祉協議会における社会福祉士の役割のまとめ	同時双方向	学内

一日の流れ（例）

時間	方法	内容	備考
8:30-9:00	開始前準備	Edutrack講義室を確認する。 資料室をみて、資料を準備する。 検温し、健康管理シートに記入する。 実習環境を整える→服装や机回りなどチェックしよう！	
9:00-10:00	双方向型 オンライン	オリエンテーション（種別毎実習のすすめ方について） 質疑応答	担当：学内教員
10:00-11:00		「社会福祉協議会の概要」についての講義を受ける 1. 社協制度と弘前市および社協の概要 2. 社協活動の概要 3. 社協の福祉活動専門員	担当：外部講師
11:00-12:00		質疑応答およびディスカッション	
12:00-13:00	休憩		
13:00-14:00	動画視聴	社協経営計画についての講義動画を視聴する 1. 涌谷町社協の概要 2. 涌谷町社協経営計画についてー必要性と策定の手順 3. 涌谷町社協経営計画についてー計画の概要と今後の展望	担当：外部講師
14:00-15:00	ディスカッション	視聴した動画についての質問および感想を投稿し、他の実習生の投稿に対してコメントを投稿する（最低2つ）。	
15:00-16:00	個人ワーク	ワークIに取り組む（調べる） 課題：自分の暮らしている地域について調べる	課題は後日、edu trackから提出
16:00-17:00	記録作成	実習記録を作成し、実習指導Ⅱゼミ担当教員へ提出する	

学内実習に対する学生の声（良い点）

- 本当に働いている人が講義してくれるとは想像してなかったのすごい良かった
- 多職種、看護師やケアマネさんなどのお話が聞けて視点の違いについて学ぶことができた
- 雰囲気を感じれない部分はあったが関係機関との連携を学ぶという点については満足度している
- 別領域の動画を見ることで同じ社会福祉士だけど仕事内容には少しずつ差があることが分かった
- 繰り返し毎日行なっていくことで自分が今まで学んできた知識、例えば面接技術だったりそういうものを再確認することができた
- 実際の実習だったらこんなにグループで話し合えなかったし、ゆっくり考察もできなかったと思う。友達と話しあえる機会があって学内実習良かったなと最後は思いました
- 最後のソーシャルワーク実習でゼミのみんなと結構意見交換ができた。なんだろうと考えなきゃいけないことが多かったので自分の力になった実習ではある

学内実習に対する学生の声（悪い点）

- 利用者の人と喋らないので実習の醍醐味である「困る」っていう場面を経験できなかった
- 実習と比べたときに利用者の方と関われないのが今回の学内実習でできなかったところ。職員目線の話だけでなく、資料だけでもいいので実際の人（利用者）の声が聞きたかった
- 事例について考えるとかだったので、実際に自分で見聞きしたことを結びつけるという学習はできなかった
- 体験して経験して自分の適性を確かめたかった
- 先生からの意見とか他の実習生の意見っていうのも少し聞ける機会があればよかった
- オンラインだからこそ出来る事っていうのをもう少し取り入れられたら良かった
- 人の話を聞いている時は常にカメラをオンにしているので、常に見られている感じがおり家の中にいるのに落ち着かない感じがした。家にいるのに帰りたいと思った
- 実習記録を毎日20時までに書かなきゃいけないっていうのが辛かった

まとめに変えて

- オンラインを活用することにより多くの領域の専門職に接する機会をつくることが可能となる
- 学内教員によるスーパービジョンの機会、実習指導者によるスーパービジョンの機会をより多く確保することが可能
- 多くの実習生と意見交換する機会を増加させることができる
- 作成した教材は繰り返し見返すことができるため、知識や技能を効果的に自分のペースで習得することができる
- 実習記録をいつでも確認することができる

今回の経験を通して、改めて実習教育（実践での学び）の必要性を痛感した。
実践の場には、その場に行かなければ体験できない、感じられない現実がある。
時間と距離の制約が少ないオンライン技術は実習教育を前に進めるうえで無くてはならない技術である。今後は、優れた教育コンテンツや教育機会を提供できるよう学内での検討を重ねていきたい。



コロナ禍における社会福祉教育の現状と今後の課題
～多様化する授業内容と方法に関する事例報告を中心に～
関東(とくに東京)における社会福祉教育



駒澤大学 荒井浩道



自己紹介

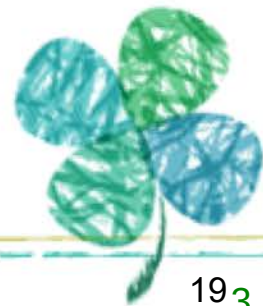
- 駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻教授
（ソーシャルワーク，面接技法，ナラティブ）
（担当科目：SW理論と方法，SW演習，SW実習等）
- 大学所在地（東京都世田谷区駒沢1-23-1）
Cf. 出身は群馬県（泉龍寺住職）





構成

- ①関東（とくに東京）の特殊性
→感染者数の問題
- ②コロナ禍以前からあった問題
→福祉専門職志望学生の減少，毎日の満員電車
- ③オンラインでどこまでできるか？
→覚える学習，考える学習，感じる学習
- ④まとめ



関東（とくに東京）の特殊性

- 東京都の感染者数：71,800 人（2021年3月5日累計値）
- 世田谷区の感染者数：8,275人（2021年3月5日累計値）
- 駒澤大学の感染者数：62人（2021年2月22日累計値）



身近な感染者の存在，自分もいつか罹るかもしれないという恐怖感，最近では下げ止まり感，満員電車の怖さ，次年度は対面の方針だけど本当にできるのかという不安（リアルな感染リスク）

“（東京は）コロナの震源地”



駒澤大学：授業はオンライン，感染者を出してはならないという空気感，実習は学内実習へ切り替え，少し落ちついた9月～10月にハイブリッドを試みるも多くの学生はオンラインを選択，感染者が増えてきてオンラインに切り替えたときの混乱（最初から完全オンラインのほうが良かった），次年度は原則対面を模索（本当にできるか？）



コロナ以前からあった問題①

東京の大学（学生数の多い総合大学）において、
社会福祉教育が抱えていた問題

駒澤大学の場合：

福祉専門職志望の学生の減少
（6～7割は非専門職）

Cf. 荒井ゼミは約10割が非専門職

さらにここ数年は、定員厳格化により難化
→必ずしも福祉を志望しない学生

教員の葛藤：

専門職養成教育vs.福祉教養教育
（SW演習履修者の何人が専門職になるのだろうか？）



コロナ以前からあった問題②

コロナ以前からあった、
東京（特に23区内）の大学がかかえていた問題

- ・家賃が高い

→自分の通う大学の近くにはなかなか住めない

- ・毎日の満員電車

→時間をかけて遠方から通学

（体力を削られる、ほぼ毎日遅延、9時から授業を開始できない、混みすぎて電車の窓が割れる、事故も多い、運転見合わせになると授業できない）

※災害で顕在化する脆弱性

Cf. 東日本大震災のときも地域の小中学校は再開できたが、
大学はしばらく再開できなかった

※4月から大学生が元通りに通学しても大丈夫か



オンラインでどこまでできるか？



①覚える学習→②考える学習→③感じる学習

(求められるアクティブラーニング、

ワークショップ形式の授業・研修の難しさ)

“対面授業をオンラインに置き換える”のではなく、

“オンラインを前提にした授業開発” (ハイブリッドは解決策ではない)

Cf. ツールの活用, アナログとの併用などの工夫



まとめ

①関東（とくに東京）の特殊性

→リアルな感染リスク（4月から対面に戻せるか？）

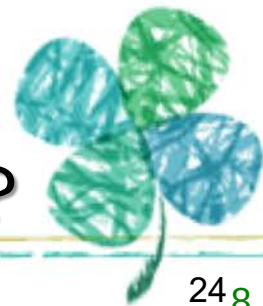
②コロナ以前からあった問題

→そもそも東京の福祉系大学にあった様々な課題

③オンラインでどこまでできるか？

→オンラインで工夫できることはまだまだある
（ハイブリッドでは解決策にならない）

※学生のためになる社会福祉教育とはなにか？



2021年3月13日

日本社会福祉教育学会 第11回春季研究集会

コロナ禍における社会福祉教育の現状と今後の課題
ー地域性と授業内容と方法の多様性を中心にー

オンラインの特性を活用した教育実践

龍谷大学短期大学部

阪 口 春 彦

(1)自己紹介

<https://www.human.ryukoku.ac.jp/teacher/sakaguchi.html>

(2)龍谷大学短期大学部の紹介

<https://www.human.ryukoku.ac.jp/>

学生食支援プログラムの概要

※ 通常は福祉施設等での実習を行っていたが、コロナ禍により在宅でできる実習プログラムを夏休み直前に設定。

(1)実習科目：「社会福祉実習Ⅰ」

※ 1単位、2年次配当、選択必修科目

(2)実習指導科目：「社会福祉実習指導Ⅰ」

※ 3単位、2年次配当、必修科目

cf.龍谷大学ウェブサイト「『学生・地域応援食事クーポン』配付中【短期大学部、学生支援特別推進室】」

<https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-5927.html>

学生食支援プログラムのスケジュール概要

cf.「2020年度 学生食支援プログラム スケジュール概要」

※ 主なねらい

コロナ禍の人々の生活に及ぼす影響を学生の立場、地域社会の状況など、複眼的な視点から学ぶ。

ソーシャル・ワークは、新たなニーズに気づけば、その対応策を企画立案し、実行に移して問題解決を図り、社会をより良いものに変えていく(社会変革していく)ものであることを理解する(変革・開発能力の養成)。

学生食支援プログラムの事後指導のスケジュール概要

2020年9月17、24日、10月1日	実習報告会準備(ライブ授業)
10月7日	実習報告会(ライブ授業)
10月8日	「社会福祉学科の教育目標」、「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」の説明、講義「コロナ禍で社会福祉は何ができるのか？」(ライブ授業)
10月15日	東九条まちづくりサポートセンターの特別講義の事前学習(ライブ授業)
10月22日	東九条まちづくりサポートセンターの特別講義(対面授業)
2020年10月29日、11月5日	南アフリカの歴史から学ぶ(映画『マンデラの名もなき看守』の視聴)(対面授業)
11月12日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(1)各受講生が、新型コロナウイルスによりどのようなニーズが生まれたのかを調べ、自らが取り組もうとする(企画立案しようと思う)ニーズを絞り込む。(ライブ授業)
11月19日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(2)各受講生が、取り組むニーズへの対応策(ソーシャル・ワーク)について企画立案する。(ライブ授業)
11月26日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(3)各受講生が、自分が立案した企画をプレゼンする。他の受講生と教員が各プレゼンに対して採点し、「予選通過企画」を選定する。(ゼミごとに3教室で対面授業)
12月3日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(4)「予選通過企画」を教室ごとにブラッシュ・アップする。(ゼミごとに3教室で対面授業)
12月10日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(5)各教室で最も評価の高かった企画についてプレゼンする。他の受講生と教員が各プレゼンに対して採点し、「最優秀企画」を選定する。(対面授業)

「ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ」(4単位、1年次配当、必修科目)において、実習事前指導として、在日コリアンが多数利用している高齢者施設の見学を実施してきた

⇒ 2020年度は、施設の方をお願いして、施設内の動画(解説付き)、施設の概要等についてのレクチャー動画を撮影いただき、既存の施設紹介動画も含めたオンライン見学会を実施

※ リアリティ等の面で課題はあるが、見学欠席者への配慮がしやすい、復習も可能

NGOによるフィリピンへのスタディツアーを海外研修として位置付けてきた

→ 2020年度は、NGOによるスタディツアーは中止

⇒ NGOのスタッフを講師として招聘し、スタディツアーに関する内容の集中講義(5コマ×3日)をオンラインで実施

※ スタディツアーと同じ学びができるわけではないが、参加のハードルが低く、例年よりも多くの学生が受講

宮城県在住のルワンダ人や愛知県にあるNGOの理事を講師として招聘する特別講義を実施してきた

⇒ 2020年度は、ルワンダおよび愛知県とオンラインでつないで特別講義を実施

※ 講師のルワンダ人はコロナ禍によりルワンダから日本に戻ることができなかったが、オンラインにより特別講義を実施できた＝オンラインだと遠隔地にいる講師による特別講義がしやすい

スウェーデンクオリティケア(SQC)の協力を得て、スウェーデンとオンラインでつないで北欧の福祉に関する特別講義を実施

cf.スウェーデンクオリティケアウェブサイト

<https://swedishqualitycare.se/>

<https://swedishqualitycare.se/topics>

※ 海外からの講師招へいは手続きが煩雑で、日程調整も容易ではないが、コロナ禍によりSQCがオンラインセミナーを始めていたため、比較的容易に実施できた



ゼミのオプション・プログラムとして、さまざまな場所を訪問するフィールドワークを実施してきた

⇒ 2020年度は、アクティビティジャパンに掲載されているオンラインツアーをゼミのオプション・フィールドワークとして位置付ける

※ 観光福祉の意義とオンラインでの観光福祉の可能性についての理解を深めることがねらい

cf. アクティビティジャパンウェブサイト

<https://activityjapan.com/>

<https://activityjapan.com/feature/online-experiences/>

※ リアルなフィールドワークと同じ学びができるわけではないが、教員・学生とも負担が少ない

「海外体験学習プログラム」の代替プログラム

龍谷大学ボランティア・NPO活動センターは、海外に赴き、現地NPO・NGOとの交流を通して、ボランティア等の体験学習を行う「海外体験学習プログラム」(正課外)を2006年度から継続して実施してきた

⇒ 2020年度は、海外支援に取り組む2つのNGOの協力を得て、海外の活動地の様子のライブ映像を交えたオンラインスタディツアーを実施

cf. 龍谷大学ボランティア・NPO活動センターウェブサイト

<https://www.ryukoku.ac.jp/npo/>

※ 学生の学習機会の確保だけではなく、スタディツアーを実施するNGOの支援等の意味もある

オンラインツアー活用のメリット

- (1) 感染リスクや現地で犯罪に巻き込まれる**リスクなどがない**
- (2) **リアル**のツアーと比べ**時間や料金がかからない**ので時間やお金
があまりない人も参加しやすい(主催者のコストも少ない)
- (3) 身体障がい・疾病がある人や体力がない高齢者なども参加しや
すい(**ユニバーサル・ツーリズム**)
- (4) パスポートの入手・保険の加入・航空券や宿泊先の手配等の手
続きが不要なので参加者にとっても主催者にとっても**負担が少な
い**
- (5) 学外組織等のオンラインツアーを活用すれば、**授業担当者の負
担を軽減できるし、プログラムの幅も広がる**

※ デメリットもあるので、**メリット・デメリットを踏まえた企画が必要**

オンラインの特性

- (1)非接触
- (2)時空をこえる
- (3)文字・音声・視覚などの一部の情報を精確に共有しやすい
- (4)触覚・嗅覚・味覚などの一部の情報は共有しにくい
- (5)限られた情報が、限られたチャンネルで共有される
- (6)録画しやすい

※ メリット： 低リスク、低コスト、アクセシブル、オンデマンド、Virtual（実体・事実ではないが「本質」を示すもの⇒本物には触れないが、本質に触れられる）

cf.英辞郎 on the WEB

<https://eow.alc.co.jp/search?q=virtual>

※ デメリット： 低リアリティ、低臨場性、交流の難しさ、関係性の希薄化、孤立を生みやすい、表面的理解、我が事としてとらえにくい

cf.瀧本美子「大学生の豊かな学びを支えるための体制づくりに関する一考察ーコロナ禍のオンライン授業で失われた『臨場性』を適度に補完し、学生一人ひとりの経験や思いを伝え合い、人生の学びに変える授業づくりと、誰でも相談しやすい学生支援体制の整備を一」(全国大学生活協同組合連合会ウェブサイト)

https://www.univcoop.or.jp/activity/teachers/pdf/pdf_covid19-column01.pdf



RYUKOKU
UNIVERSITY

2020.12.29

2020年9月17、24日、10月1日	実習報告会準備(ライブ授業)
10月7日	実習報告会(ライブ授業)
10月8日	「社会福祉学科の教育目標」、「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」の説明、講義「コロナ禍で社会福祉は何ができるのか？」(ライブ授業)
10月15日	東九条まちづくりサポートセンターの特別講義の事前学習(ライブ授業)
10月22日	東九条まちづくりサポートセンターの特別講義(対面授業)
2020年10月29日、11月5日	南アフリカの歴史から学ぶ(映画『マンデラの名もなき看守』の視聴)(対面授業)
11月12日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(1)各受講生が、新型コロナウイルスによりどのようなニーズが生まれたのかを調べ、自らが取り組もうとする(企画立案しようと思う)ニーズを絞り込む。(ライブ授業)
11月19日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(2)各受講生が、取り組むニーズへの対応策(ソーシャル・ワーク)について企画立案する。(ライブ授業)
11月26日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(3)各受講生が、自分が立案した企画をプレゼンする。他の受講生と教員が各プレゼンに対して採点し、「予選通過企画」を選定する。(ゼミごとに3教室で対面授業)
12月3日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(4)「予選通過企画」を教室ごとにブラッシュ・アップする。(ゼミごとに3教室で対面授業)
12月10日	「新型コロナウイルスにより生まれたニーズへのソーシャル・ワークの企画立案コンテスト」(5)各教室で最も評価の高かった企画についてプレゼンする。他の受講生と教員が各プレゼンに対して採点し、「最優秀企画」を選定する。(対面授業)

2020年度 学生食支援プログラム スケジュール概要

※ 実習生はすべてオンラインで参加

日程	主体	取組内容	実習時間
2020年5月27日（水）	実習生有志	外国人が経営する店舗の持続化給付金の申請補助	1
2020年7月13日（月）まで	実習生	依頼文書（案）を作成、manabaで提出	3
2020年7月16日（木）	実習生	講義＋感想等記入・提出	2
2020年7月21日（火）まで	阪口	依頼文書（案）のデータを学生支援特別推進室へ提出	
2020年7月21日（火）まで	学生支援特別推進室	依頼文書を完成させ、データを阪口へ提出	
2020年7月21日（火）まで	実習生	飲食店へ協力依頼＋協力店舗の情報収集、manabaで結果を報告	1×店舗数
2020年7月21日（火）～ 2020年7月26日（日）	実習生有志	クーポンのデザイン・素材検討、データを阪口へ提出	10
2020年7月21日（火）～ 2020年7月26日（日）	阪口	協力店舗のリストの作成	
2020年7月22日（水）～ 2020年7月27日（月）	阪口	協力店舗へ依頼文書を渡す＋店舗情報を再確認	
2020年7月23日（木）	実習生	講義＋感想等記入・提出	2
2020年7月23日（木）18:45～20:00	実習生	ムハマド・ユヌス博士オンラインチャリティー講演会＋感想等記入・提出	2
2020年7月26日（日）まで	阪口	クーポンのデザイン・素材のデータを学生支援特別推進室へ提出	
2020年7月26日（日）まで	阪口	協力店舗のリスト・マップのデータを学生支援特別推進室へ提出	
オンデマンド（2020年7月27日（日）配信）	実習生	講義（飲食店への協力依頼の結果についての共有、クーポン作成の進捗状況の共有、協力店舗のリスト作成の進捗状況の共有、実習スケジュールについて等）＋感想等記入・提出	2
2020年7月27日（月）～ 2020年7月29日（水）	阪口・管理課・短大教務課	クーポンの配付場所の手配、備品、掲示物の調達	
2020年7月27日（月）～ 2020年8月4日（火）	阪口、徳田	クーポンの見本を協力店舗に配付	
2020年7月27日（月）～ 2020年7月29日（水）	学生支援特別推進室	クーポンのデザインを完成させ、印刷、阪口へ納品	
2020年7月29日（水）～ 2020年8月7日（金）	学生支援特別推進室・学長室（広報）	クーポンのデータを阪口へ送付	
2020年8月7日（金）	学生支援特別推進室・学長室（広報）	クーポンの利用案内	
2020年7月30日、31日、8月1日、3日、4日、5日、6日、7日	阪口、徳田、姫田、学生支援特別推進室	クーポンの配付	
2020年7月31日（金）～ 2020年7月31日（金）～ 2020年8月6日（木）	学生支援特別推進室・学長室（広報）	大学ウェブサイトの「ニュースセンター」（「ニュース」）、「トピックス」で学生食支援プログラムについて掲載	
2020年8月6日（木）	実習生	SNS等での広報・利用促進＋掲示板での報告	実際にかかった時間
オンデマンド（2020年8月1日（土）配信）	実習生	講義（現状についての共有、SNS等での広報・利用促進＋掲示板での報告についての説明等）＋感想等記入・提出	2
2020年8月1日（土）～ 2020年8月31日（月）	クーポン申込学生	クーポンの利用	
オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	中川あゆみ「『もう限界』コロナ禍の失業で生活困窮者からSOS急増 支援団体『福祉崩壊』の声も」『Yahoo Japanウェブサイト』2020年5月27日（ https://creators.yahoo.co.jp/nakagawaayumi/0200066505 ）の視聴＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	共同通信ウェブサイト「生活苦融資、リーマンの80倍 コロナ禍で1千億円超、申請殺到」（ https://news.yahoo.co.jp/articles/f20eddba91877078f9fa9b2515d397d8fddfb3a ）の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	神田憲行「前例がないからこそ、先陣を切りたたかった——「車いすのラーメン店」、誕生までの軌跡」『Yahoo Japanニュース』2020年7月24日（ https://news.yahoo.co.jp/feature/1772 ）の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	ORANGE HOUSE店主インタビュー動画の視聴＋感想等記入・提出	1

オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	室橋裕和「『同じ人間として考えてほしい』——『リトル・インディア』西葛西でコロナ禍に苦しむインド人たち」Yahoo!ニュース 特集編集部『Yahoo!ニュース 特集』2020年6月4日 (https://news.yahoo.co.jp/feature/1722) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	外国人が経営する着物レンタル店主インタビュー動画の視聴＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	「“国際線ゼロ”空港出発ロビー閑散…観光バスのタイヤにクモの巣 北海道観光の今【#コロナとどう暮らす】」『北海道ニュースUHBウェブサイト』2020年7月31日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/8b8256525978326a95b4132f7eb956391349c32d) の視聴＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	ホテル・飲食店副支配人インタビュー動画の視聴＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月2日（日）配信）	実習生	講義（SNS等での広報・利用促進＋掲示板での報告についての説明、コロナ禍についての理解に関する解説等）＋感想等記入・提出	2
2020年8月6日（木）～	阪口・学長室（広報）	大学ウェブサイトの「ニュースセンター」の「プレスリリース」で学生食支援プログラムについて掲載	
2020年8月7日（金）	阪口・学生支援特別推進室・学長室（広報）	京都新聞による取材	
2020年8月7日（金）	阪口	クーポンの受取学生数を学生支援特別推進室へ報告	
オンデマンド（2020年8月8日（土）配信）	実習生	「温泉街「まるでゴーストタウン」…“ウボボイ”への期待と憂い 北海道観光の今【#コロナとどう暮らす】」『北海道ニュースUHBウェブサイト』2020年8月4日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/9a44d784501860b99833067752601c18723e7341) の視聴＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月8日（土）配信）	実習生	琉球新報ウェブサイト「宿泊キャンセル3万2653人 年内損失3億超 沖縄県ホテル組合調査」2020年8月8日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/68d2676e5431d09f8f646803f1315da6212f4639) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月8日（土）配信）	実習生	朝日新聞デジタルウェブサイト「解雇や雇い止め、製造業が最多7千人に 宿泊業を抜く」2020年8月5日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/f6b2da9e58e1c03074b5f7be9989f09a4387b982) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月8日（土）配信）	実習生	毎日新聞ウェブサイト「派遣切り、外国人直撃 “再就職厳しい” 増す不安 新型コロナ」2020年8月5日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/d49f75af8f02332e7457246066db18bb02db53e4) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月8日（土）配信）	実習生	朝日新聞デジタルウェブサイト「障害者の解雇増加 コロナ影響か、2～6月に1104人」2020年8月3日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/de736c3d892c536d0a867d4ee03f5a10f4504d4) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月8日（土）配信）	実習生	共同通信ウェブサイト「来春大卒求人、コロナで15%減 企業慎重、採用は68万人」2020年8月6日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/a8ea52d12767c6c832b3f5ce724058d0d382038f) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月8日（土）配信）	実習生	講義（現状についての共有、コロナ禍についての理解に関する解説等）＋感想等記入・提出	2
オンデマンド（2020年8月14日（金）配信）	実習生	Yahoo Japanニュースウェブサイト「政府の要請も『無視』『派遣切り』を強行する人材派遣大手の実態とは」2020年8月11日 (https://news.yahoo.co.jp/byline/konnoharuki/20200811-00192723/) の視聴＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月14日（金）配信）	実習生	帝国データバンクウェブサイト「7月の企業倒産 847件、前月上回し今年最多を更新」2020年8月11日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/0ce29fa162cc904170c6eee4166c83901ba7d6eb) の通読＋感想等記入・提出	1

オンデマンド（2020年8月14日（金）配信）	実習生	withnewsウェブサイト「コロナの中『先手』を打った中国人店主 弁当500食の無料配布から見たこと『商売は暗くしちゃだめ』【#コロナとどう暮らす】」2020年8月12日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/7b15a4a641101c50a2bc4f4c36ad0610bc7f24e4?page=1) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月14日（金）配信）	実習生	withnewsウェブサイト「マスクすら買えない子どもたち…一人で生計立てる10代の過酷な日常『渡して終わり』ではない支援目指し」2020年8月12日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/d7f2e52d52774d65a05240489033b4f2d45fd42c?page=1) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月14日（金）配信）	実習生	講義（現状についての共有、コロナ禍についての理解に関する解説等）＋感想等記入・提出	2
オンデマンド（2020年8月22日（土）配信）	実習生	共同通信ウェブサイト「立命大生、1割が退学を視野に 休学は4分の1、学生新聞調査」2020年8月19日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/c21f2fa167cbce2bcd68926178db7e898ff90203) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月22日（土）配信）	実習生	時事通信ウェブサイト「ホームレス、届かぬ10万円住民登録なく対象外に 定額給付金、申請期限迫る」2020年8月22日 (https://news.yahoo.co.jp/articles/5669c0f6267724f3e89267babb5f9ccc16157e34) の通読＋感想等記入・提出	1
オンデマンド（2020年8月22日（土）配信）	実習生	講義（実習課題等についての説明、コロナ禍についての理解に関する解説等）＋感想等記入・提出	2
2020年8月25日（火）	阪口	本願寺新報による取材	
2020年9月2日（水）～ 2020年9月5日（土）	阪口	利用済みクーポンを協力店舗より回収＋協力店舗の振込口座情報を確認＋利用済みクーポンと協力店舗の振込口座情報を学生支援特別推進室へ提出	
2020年9月4日（金）～ 2020年9月17日（木）	学生支援特別推進室	クーポン利用額を協力店舗の指定口座へ振り込み	
夏期休業中	実習生有志	「在宅での社会貢献活動」の企画立案・実施（例：フードロスの取組）	実際に かった時間
2020年9月7日（月）13:15～16:30	実習生	講義（利用実績等確認・事後評価）＋感想等記入・提出	4
2020年9月13日（日）13:00～16:00	実習生	日本社会福祉学会学会企画シンポジウム＋感想等記入・提出	4
2020年9月14日（月）まで	実習生	総括レポートの作成、提出	10

日本社会福祉教育学会 第11回春季研修集会

「コロナ禍における社会福祉教育の現状と課題
—多様化する授業内容と方法に関する事例報告を中心に—」

コロナ禍でも出来る！ グローバル社会福祉教育の実現 を目指した教育実践



聖カタリナ大学 高杉 公人



1. グローカル視点 と社会福祉教育

グローバルの概念

Think Globally, Act Locally

地球規模で考えて、地域で行動せよ！

1972年「国連の人間環境会議」を通して国際的に共有されるようになった考え方。

1980年代 世界規模の経済の動きが取り上げられるようになり、グローバリゼーションという用語が使われ始める。

1990年代 1997年G7首脳会議でグローバリゼーションが中心議題として取り上げられる。グローバリゼーションは、プラス面だけでなく、環境問題や貧富の格差といったマイナス面からも語られ始める。

社会学者Robertson（1994）によるグローバリゼーションによる普遍性の拡大⇔個別化の重視 **グローバルの概念化**

日本の社会福祉教育における グローバル視点の重要性

日本における社会福祉教育は国内の問題が中心に議論されることが中心である。そのため、今までの社会福祉士養成カリキュラムではグローバル化や多文化共生等に関する科目は入っていない。



一方で、世界的にグローバル化に対応するソーシャルワークやソーシャルワーク教育の重要性が高まる⇒グローバル・ソーシャルワークの発展



日本でも国内での移民や難民に対する「多文化ソーシャルワーク」が取り上げられるようになる（石河2012，武田2013）

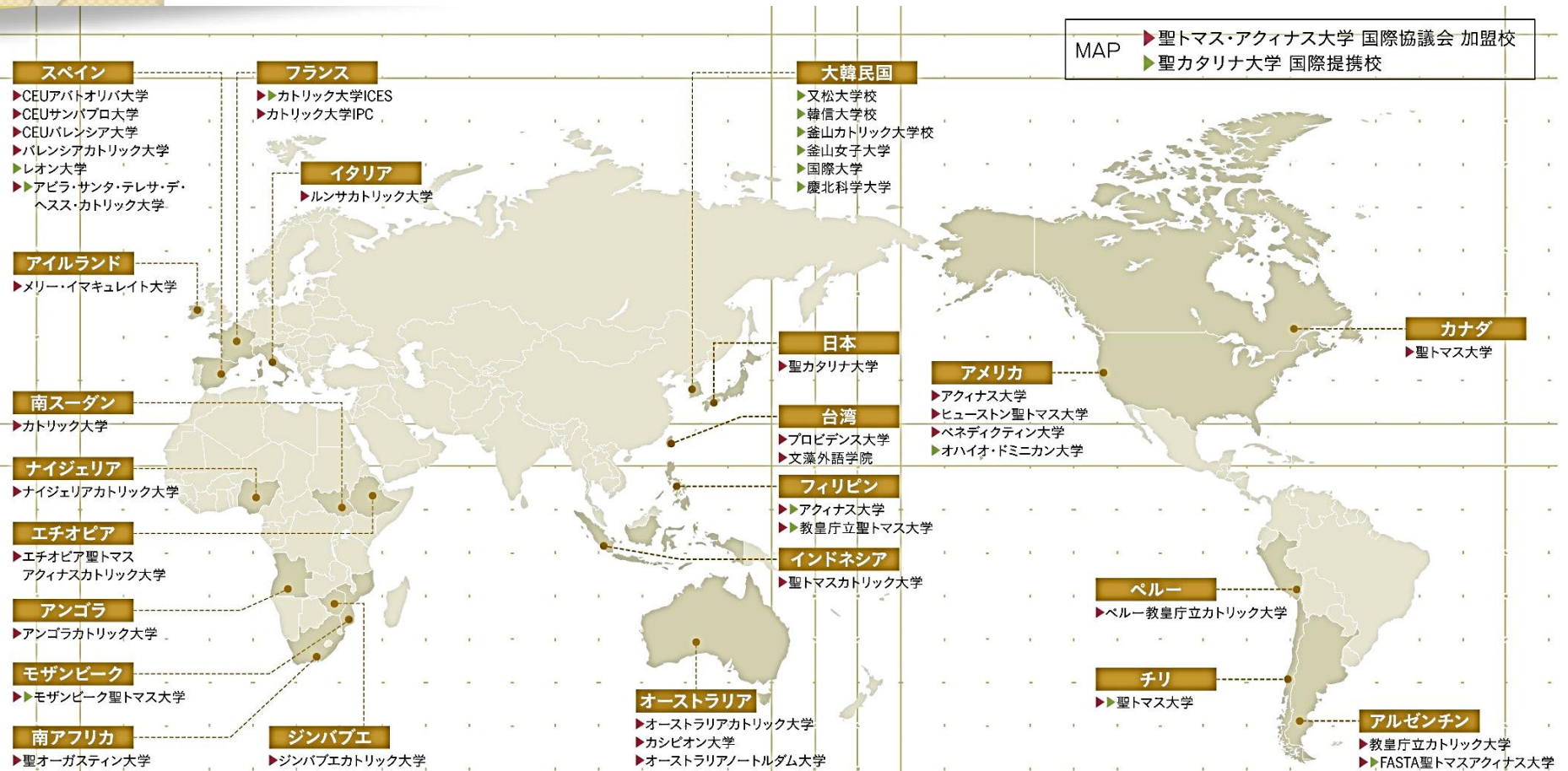


Christensen（2016）「ソーシャルワークをグローバルな理解を得ることによりローカルな文脈で理解する必要がある」⇒グローバル視点の重視

大和（2019）による「日本のソーシャルワーク教育におけるグローバル・アプローチの必要性」の提唱

私自身も教育者としてのグローバル視点を重視！

聖カタリナ大学のグローバルネットワーク



聖トマス・アキナス大学国際協議会（ICUSTA）

カトリック系大学の世界的連合体組織。全世界の約30大学が加盟し、共同研究・国際交流・学生の交換留学を積極的に推進している。



2. コロナ禍におけるローカル視点の 社会福祉教育実践

社会福祉士養成学内実習 の実施に至る背景

愛媛県は新型コロナウイルス感染者が少なく、基本的に従来通り学外実習を8月に行う準備をしていた。学内実習についてはその可能性は考えていたが、具体的な内容は決まっていなかった。

学外実習を行う準備の例

- 本学の新型コロナウイルス対策ガイドラインをまとめて実習先に提出し、内容に合意頂いた実習先のみで実習を行う（キャンセルは1施設のみ）。
- 新型コロナウイルスの感染に対応した保険（Will）に実習生全員を加入させる。
- 実習担当教員は、3回の巡回訪問をオンライン指導に切り替えて、直接巡回指導を行う回数を最後の1回のみにする。
- 本学独自のルールとして、実習中はもちろん、実習が始まる2週間前から他県の訪問やアルバイトを禁止して、出来るだけ外出を控える（実習中はもちろんアルバイトを禁止）。 等

しかしながら、殆どの実習が開始予定の4日前に本学学生の新型コロナウイルス感染者が発生した。



急遽、学外実習から学内実習に切り替えて行うことが決定した。



実習の開始を2週間遅らせ、急ピッチで学内実習の準備を行った。

本学の学内実習

- 学内実習プログラムは、基本的に領域ごとに分けて領域担当教員が作成し、実施する。

高齢者領域

障害児・者領域

児童領域

医療領域

地域（社協領域）

5 領域

内容が被るものは一部合同で実施

- 新型コロナウイルス感染対策として、ほぼ**全面的にオンライン（Zoom）で実施**する。
- 既に実習生の事前訪問が終わっており、実習計画書の目標も定まっている。また、殆どすべての実習先から実習プログラムも届いていることから、**実習の個別性を出来るだけ担保**した学内実習プログラムを領域別担当教員が作成する。
- 実習を行う予定であった実習先指導者にオンラインで登場してもらい、実習生に個別指導を行ってもらう。

学内実習 全体の内容

学内実習プログラムは領域別に作られるが、大まかには以下のようになる。

職場実習・職種実習（8月17日～8月27日）

8月17日の最初に全体オリエンテーションを行った後、領域に分かれての実習内容を説明。8月18日～27日までは、午前中は各施設・機関の福祉サービスや事業、そこで働くソーシャルワーカーの取組について、ゲストの方にご登壇頂いてご説明頂く。午後はその内容に従って演習や事例分析を行う。

ソーシャルワーク実習（8月28日～9月11日）

個別事例や指定の地域について学生が主体的に調べ、支援計画を立てる。

キャリアプラン実習（合同：9月17日、10月23日、10月26日）

実習評価表等を活用して、実習生のソーシャルワーカー像に合った職に就くためのキャリアプランを考える。

実習先への依頼内容（地域領域）

- ① 実習初日（8月17日）の実習先の概要説明と地区の指定
- ② 指定地区に関する情報提供
- ③ 社協事業についてのご説明（愛媛県内社協に各一事業ずつ順番にZoomで登場頂き説明して頂く）
- ④ 地域のキーパーソンやNPO・ボランティアグループ・当事者グループのリーダー等へのオンラインインタビューの実施
- ⑤ 支援計画発表会（9月11日）への出席
- ⑥ その他映像資料の提供

初日は
実習先指導
者と打ち合
わせ

実習プログラム

1～2週間は
午前中が事業
説明、午後が
ふりかえり・
個別事例分析

8月 17日(月)	8月 18日(火)	8月 19日(水)	8月 20日(木)	8月 21日(金)
実習オリエンテーション 学内 教員から学内実習に関する説明 (Zoomでの登場)	生活困窮者自立支援事業の紹介 教員による生活困窮者自立支援 事業の概要説明(動画での登場) ゲスト: 古田翔也(元砥部町社協職員)	地域福祉活動計画の取組紹介 教員と実習指導者による地域福祉活動計画 の取組紹介(動画での登場) 担当: 今治市社会福祉協議会	ボランティアセンター事業の紹介 教員と実習指導者からボランティアセンター の 活動紹介(動画での登場) 担当: 松山市社会福祉協議会	社協の介護保険事業や市内の社会福祉 法人との連携・協働の取組紹介 教員と実習指導者から社協の関連事業所や 市内の社会福祉法人との連携・協働の取 組説明(動画での登場) 担当: 松前町社会福祉協議会
実習オリエンテーション 実習先 実習指導者からの社協の及び地域の概況に 関する説明(Zoomでの登場)	座学: 生活困窮者自立支援事業の 概況まとめ	座学: 地域福祉活動計画の取組まとめ	座学: ボランティアセンターやボランティア コーディネーターの活動まとめ	座学: 社協の介護保険事業や社会福祉法 人との連携・協働の取組まとめ
座学: 社協の概況・組織図まとめ	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	巡回指導①
座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入
8月 24日(月)	8月 25日(火)	8月 26日(水)	8月 27日(木)	8月 28日(金)
生活福祉資金貸付・福祉サービス利用援 助事業の紹介 教員と実習指導者から生活福祉資金貸付・ 福祉サービス利用援助事業の概況に関する 説明(Zoomでの登場) 担当: 八幡浜市社会福祉協議会	生活支援体制整備事業の紹介 教員と実習指導者からの生活支援体制整備 事業の概況に関する説明 (Zoomでの登場) 担当: 今治市社会福祉協議会	愛媛県内福祉教育活動の説明 福祉教育活動プログラミングの実践 活動紹介(Zoomでの登場) 愛媛県社協: 福祉学習実践ハンドブック 勉強会への参加(Zoomでの参加) プレゼン: 福祉教育プログラムの発表	地域の概況把握 地域アセスメントシートの作成 生活困窮者自立支援の事例分析	地域包括支援センター コロナ禍での取組 地域包括支援センター ゲストスピーチ
座学: 福祉サービス利用援助事業の 事例分析	座学: 生活支援体制整備事業まとめ	座学: 福祉教育プログラムの発表	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入
座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	巡回指導②	座学: 実習記録の記入
8月 31日(月)	9月 1日(火)	9月 2日(水)	9月 3日(木)	9月 4日(金)
地域の概況把握 教員と実習指導者から地域の概要説明 (動画での登場)	被災者支援の事例分析	地域のキーパーソンへのインタビュー 自治会長・区長・地区社協会長・民生委員等 へのインタビュー (動画での登場)	NPO・ボランティア・当事者グループ へのインタビュー NPO・ボランティア・当事者グループへのイン タビュー(動画での登場)	地域支援計画①アセスメント 実習先が用意した個別ケース或いは地域を 支援する方法を考える。
被災者支援・地域支え合いセンターの 取組紹介 実習指導者からの説明 担当: 大洲市社会福祉協議会	社協ワーカーの1日の活動 (DVDの視聴)	座学: インタビュー結果まとめ	座学: インタビュー結果まとめ	巡回指導③
座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入
9月 7日(月)	9月 8日(火)	9月 9日(水)	9月 10日(木)	9月 11日(金)
地域支援計画④プランニング 実習先が用意した個別ケース或いは地域を 支援する方法を考える。	フィールドワーク① Line Meetingでの指導 地域支援計画③プランニング 実習先が用意した個別ケース或い は地域を支援する方法を考える。	フィールドワーク② Line Meetingでの指導 地域支援計画②アセスメント 実習先が用意した個別ケース或いは地域を 支援する方法を考える。	地域支援計画⑤プランニング 実習先が用意した個別ケース或いは地域を 支援する方法を考える。	地域支援計画発表会 実習先が用意した個別ケース或いは地域を 支援する方法を考え、個別に発表する (実習先の方はZoomで参加) グループワーク: 支援計画の改善に関する 話し合い
座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	座学: 実習記録の記入	巡回指導④

後半：地域支
援計画作り

最後：地域支
援計画発表会

学内実習でも、フィールドワークの実施

指定地域に対する支援計画を作って発表を行う予定であるが、学生が一度も地域に行っていないのは問題ではないか。

地域支援計画の発表データ（発表映像・作成試料）は地域にフィードバックするのに、地域住民に良く思われたいのではないかと？



学内でも賛否が分かれたが、2日間（午前中のみ）ほど学生を地域に自分たちで行かせてフィールドワークを実施することになった。

教員と学生はLINEを活用（LINE MEETINGを使用）し、1時間ごとに状況確認を行った。学生は映像で撮った写真等を見せて状況報告し、教員は行動についての指導を行った。

学内実習の成果と課題

成果

- 学生の日々の成長を教員が逐一確認することが出来た（**教員の声**：実習記録の確認・コメントのやり取り等から）。
- 一つの事例（生活困窮者）を、指定地域にあてはめて社会資源を探しながら深く分析することができた（**学生の声**：社会資源の活用・調整・開発スキルの向上）。
- グループワークによる事例検討を行うことにより、リーダーを体験することでディスカッションのファシリテーション能力が向上した。（**学生の声**）
- 地域支援計画の発表会で、実習指導者や地域の方々からフィードバックをもらうことで自分のプレゼンテーションの能力の確認が出来た。（**学生の声**）
- 領域別グループのメンバー同士が、すごく多くの時間を過ごすことでお互いを良く分かった。戦友となった。（**学生の声**）
- 現場でもオンラインを使って仕事を行うときの良い練習となった。（**現場の声**）

⇒学内実習でも、思ったより多くのことが体験出来たが、やっぱり現場に行きたかった！との学生の声もあった。

課題

- 支援対象者の方々にオンラインで登場いただくために同意を得ることが難しい。（現場の声）
- 現場のリアルを伝えることはオンラインでは限界がある。（現場の声）
- 個人情報のオンラインでのやり取りに関しては、組織としてのガイドラインが未整備であり、もしも何かがあったときに対処する方法が分からない（現場の声）
- 学内実習で現場の方にオンラインでご登場頂くことについて、現場教員は「実習なので実習費を全額支払うべき」と主張したが、大学側が「実習に行っていないので実習費は払えない」と抵抗した。現場の実習マネジメントと組織マネジメントを連携して行うことの難しさが露呈した。（教員の声）
- オンラインを使うとなると、養成校と実習先現場のどちらが責任を持つのが分かりづらくなる。今回は緊急対応という観点で現場側も理解してくれたが、今後感染症のリスク対応をどこまで実習契約に入れ込んで双方が合意できるのか、綿密な調整が必要となる。（教員の声）



3. コロナ禍における グローバル視点の 社会福祉教育実践

3-1 コロナ禍における留学生 の授業参加問題

本学では、コロナウイルス感染者の減少を受けて2020年の5月28日から対面授業を開始した。しかし、日本に入国できず対面授業に参加できない留学生（主に台湾から）が居たことから、全員が入国が可能になるまで、**対面授業＋オンライン授業のハイブリッド型**での授業が行われた（5月29日～11月9日まで）。

留学生に対する選択型 ハイブリッド授業 遠隔授業（選択型）

- **オン・デマンド方式**

対面授業の動画を残しておき、留学生が動画を視聴して課題を提出する。

- **オンライン方式**

体面授業を行いながら、教室のPCを留学生とZoomでつないでオンラインで直接やり取りをする。

⇒大学はオン・デマンド方式を推奨したが、殆どの教員がオンライン方式を選択

オン・デマンド方式の課題

- 対面型で授業を行いながら、それをビデオ等で録画したものを視聴させても、大事なポイントが伝わりづらい。
- 動画を視聴した留学生に証拠として毎回課題を課す必要があり、学生への負担が大きい。

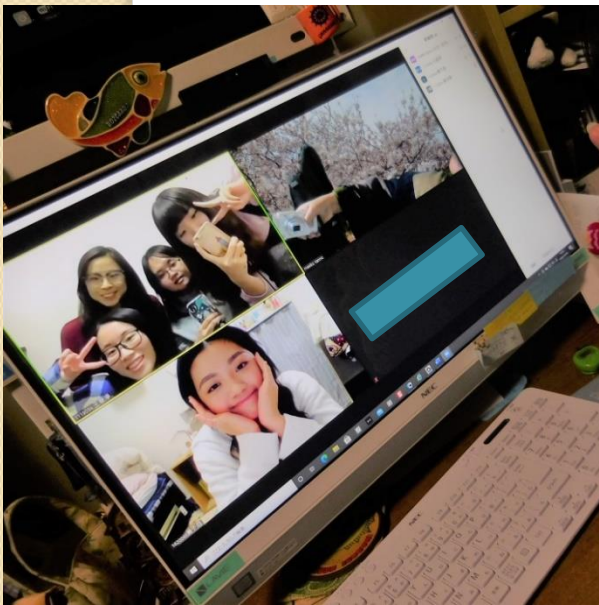
⇒しかし大学側は①対面授業に使える教室（ソーシャルディスタンスを保つことのできる広い教室）のWi-Fi環境が整っていない、②使える教室の数に合わせて授業時間を組み替える必要がある（留学生の授業同士の時間が被る可能性がある）ことを理由にオン・デマンド方式を推奨した。

オンライン方式のハイブリッド授業 実施のポイント

- ① 留学生にはZoomのURLと当日配布資料を事前に送る。
- ② 留学生は授業時間にZoomで授業に参加する。教員はZoomを確認して出席確認を行う。
- ③ 配布資料をZoomの画面共有を使って留学生に見せると同時に、その画面をスクリーンに映写して教室の学生に見せる。
- ④ 黒板への板書は、PCのカメラが映せる狭い範囲にまとめて記入する。

⑤ グループワークを行う場合

教室内ではソーシャルディスタンスを意識して、模造紙等を壁に貼り、書記の学生のみが模造紙に記入する。オンラインではZoomのブレイクアウトルーム機能を使ってディスカッションさせる。模造紙等の代わりにGoogleスライドに解答をまとめさせる。グループ発表は、会場の学生はPCカメラの前で行い、留学生はオンラインから教室のスクリーンに登場して行う。



オンライン方式のハイブリッド 授業のメリットとデメリット

留学生への直接的な聞き取り

メリット

①グループワークについて

- グループワークは台湾人だけなので意見が言い易い。
- 日本語に自信が無いので、日本人とのやり取りに気後れすることがあるが、今回はそれが無かった。

②教師への質問について

- 授業中で手を挙げて質問するのは難しいが、オンラインならチャットで質問して、文字で回答がもらえる。
- 普通の対面授業より、教師と正対しているので教師の反応が見えやすい。

デメリット

① 他学生の反応について

- グループ発表をすると、教師の反応は分かるが教室に居る日本人学生がどんな反応をしているか分かりづらい。
- 自分が発表した内容が良かったのか悪かったのか、拍手も聞きづらく分からない。

② オンラインの負担

- Googleスライドへの記入は、模造紙より時間がかかる。
- 作成した課題を教室で先生に渡すほうが負担が少ない。課題を作成して提出する手間が大変である。

3-2. その他のICTを活用した国際交流 聖カタリナ大学の国際社会福祉論海外研修

韓国短期留学コース
アンニョン ハ セヨ
안녕하세요 (国際福祉論・韓国語Ⅰ-b・韓国語Ⅱ-bのいずれか)
8月中旬約2週間 韓信大学校で、担当:ロウ先生 『履修ガイド』P.180

Hello!
シアトル短期留学コース
(英語Ⅱ-bまたは英語Ⅲ-b)
8月下旬～9月下旬の間に約2週間
シアトル・パシフィック大学
担当:ロウ先生
『履修ガイド』P.116,117

iHola!
スペイン海外研修コース
(国際福祉論または
スペイン語Ⅱ-b)
8月下旬～9月中旬の間に約2週間
レオン大学、担当:宮武先生
『履修ガイド』P.181

Halo!
フィリピン海外研修コース(国際福祉論)
9月中旬約2週間 聖トマス大学
担当:高杉先生 『履修ガイド』P.182

★ 「留活!」学生時代がチャンス

国際社会福祉論 スペイン海外研修コース



聖カタリナ大学



レオン大学

スペインのマドリッドにあるレオン大学社会福祉学部と連携して、スペインの社会福祉や文化に触れることを目的とした研修

⇒新型コロナウイルス感染症の流行により中止

国際社会福祉論 フィリピン海外研修コース



聖カタリナ大学



聖トマス大学

フィリピンで最も古いカトリック系大学である聖トマス大学の国際関係部と連携して「フィリピンと日本の貧困者に対する支援」をテーマにした合同授業及びコミュニティ訪問を行う研修。

⇒新型コロナウイルス感染症の流行により中止

I C T を活用した 国際交流の取組



聖カタリナ大学



聖トマス大学
モザンビーク校

I C U S T Aの一員である聖トマス大学モザンビーク校の日本語を学んでいる学生と、本学学生とSkypeを通じた「モザンビークとつながろう！プロジェクト」を実施

モザンビーク共和国



モザンビーク共和国は、アフリカ大陸南東部に位置する共和制の国家で、首都はマプトである。

旧ポルトガルの植民地であり、1964年からのモザンビーク独立戦争を経て1975年に独立した。

近年では好調な経済成長を続けており、マプトでは日本と変わらないインフラ整備が行われている。一方、貧富の格差が大きく農村部では子どもが教育を受けられない等の社会問題が発生している。

また、洪水、サイクロン、干ばつ等の自然災害が毎年発生しており、災害支援も大きな課題である。



モザンビークとのグローバルな つながり

愛媛県とモザンビークとのつながり

- モザンビークの平和構築活動「銃を鋤へ」プロジェクトに対して、松山市内の特定非営利活動法人「えひめグローバルネットワーク」が間に入って、2000年より松山市の放置自転車を交換物資として送り始めたことから交流開始。
- 2008年5月31日、モザンビークのゲブザ大統領は、外務協力大臣、教育文化大臣、公共事業・住宅大臣を含む33名で愛媛を来訪した。
- 愛媛県が東京オリンピックのモザンビークからのオリンピック・パラリンピアンホストタウンになっている。

本学とモザンビークとのつながり

- 2008年5月31日、モザンビークのゲブザ大統領の使節団と共に、聖トマス大学モザンビーク校の学長が本学を訪問し、国際交流提携協定を結ぶ。
- 2018年に聖トマス大学モザンビーク校の日本語教師よりメールで日本語を学んでいる学生と本学学生との交流を希望する連絡があった。
⇒2019年6月にICUSTA国際会議で本学学長・国際交流委員長と聖トマス大学モザンビーク校の学長・国際交流委員長との話し合いで、「モザンビークとつながろう！プロジェクト」の実施が決定した。

モザンビークとつながろう！ プロジェクトの内容

国際福祉論や地域福祉論の履修学生が参加！

- 学生同士の大学や国・地域の紹介
- お互いへの質問（日本人学生は日本語か英語、モザンビークの学生は日本語かスペイン語）
- 日本語の歌（さくらさくら）の合唱



モザンビークとつながろう！

プロジェクトの成果

- 本学の提携校である聖トマス大学モザンビーク校の日本語を学んでいる学生と本学の学生とがSKYPEを通じて交流した。このプロジェクトはお互いの学生同士の国際理解の促進及び語学力の向上に役立った。
- 聖トマス大学モザンビーク校の学生は、日本語で自国の文化・歴史紹介や日本に関する本質を問うことで、日本に対する理解を深め、日本語を学ぶモチベーションを高めている。それに対して本学学生は、英語でモザンビークに関する質問や日本の伝統文化紹介をすることで、遠く離れたモザンビークに対する理解を深めた。

本学のICT国際交流に向けた 今後の方向性

本学はICUSTAを通じて、世界中の多くのカトリック系大学と連携協定を結んでいるが、それを活かしきれていない。

特に新型コロナウイルス感染症の世界的流行といった非常時には、海外研修のような交流はストップせざるを得ない。



今後も様々な提携校とICTの活用による国際交流を発展させる予定である。特に同じ学問ベースの学生（ソーシャルワークを学ぶ学生同士）同士が互いの大学の授業に参加して学び合う教育交流の推進を進める。

本学のICT国際教育交流に向けた 今後の課題

• 時差の問題

モザンビークとの交流は時差の問題（日本と7時間）が大きく、授業のライブ参加には大きな課題となる。時差の大きい国とは、授業内交流は録画等の参加になる。より時差の無いアジア・オセアニアの国との協力協定を結ぶ努力が必要となる。

• 学生の興味促進

モザンビークとの交流では、モザンビークの学生と日本人学生のモチベーションの差が顕著であった。特に社会福祉を学ぶ学生の多くが、資格取得に集中しすぎて、国際教育交流に興味を示さない学生も多い。いかに日本人学生に魅力を発信できるかが課題である。

• 教員のサポート体制の構築

ICT国際交流教育を授業に組み込んで行う際に、教員が現地の教員と直接やり取りをして授業のコーディネートをする必要がある。その為には、少なくとも教員が英語でのコミュニケーションや文書作成等が必要となるが、それが可能な教員が少ない。本学の国際交流委員会としてそのような教員のサポート体制を構築する必要がある。

引用文献

Christensen, J.M. (2016) Acting locally, thinking globally in social work education. *International Journal of Social Science and Education Research*, 2(3), p.1160-1173.

Robertson, R.(1994) Globalization or Glocalization? *The Journal of International Communication*, p.33-52.

石河久美子（2012）『多文化ソーシャルワークの理論と実際』明石書店.

大和三重(2019)「グローバル化時代の日本におけるソーシャルワーク教育 ―グローバル・アプローチの勧め―」『Human Welfare』 第11巻(1), p.39-52.

武田文(2013)「2012年度学会回顧と展望―国際部門―」『社会福祉学』 Vol.54, No.3, p.176―189.